

令和 2 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501722		
法人名	医療法人 富松記念会		
事業所名	グループホーム いろは		
所在地	福岡県大牟田市三池163番地		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果確定日	令和3年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

女性入居者様と一緒に掃除、洗濯、食事の準備や後片付けを通して主婦として、母親として過ごされた日常生活の維持を継続する、また一人一人の思いに添えるような対応と本人のペースで過ごせる環境をつくる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域とともに歩み響きあう真心のケアがごちの良さととなり、こころやすらぐ『我が家』となる」との理念を具現化するため、全職員のアンケート結果から努力目標を掲げている。午後になると「家に帰る」と言われる入居者が納得する対応を全職員が実践したり、「待つ」だけではなく入居者に待つ理由や時間を納得してもらえる声かけに務めている。本人と相談しながら、食材の切り込みだけでなく、お粥や炒め物、おにぎり作りで力を発揮できる役割や場づくりをしている。コロナ禍の中、まちづくり協議会で「ながら見守り」に関わり、エコキャップリサイクル活動を継続している。定期的に入居者の笑顔満載のホーム便りを発行し、個々の入居者の暮らしぶりは家族来所時や個別に書面で報告するなど、清潔な居住空間で一人一人が喜び笑いあって楽しく過ごせる支援や又感染防止、事故防止に努めるとの目標に全職員で邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **あさひユニット/グループホームいろは**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づいた努力目標を全員で共有し実践するよう努めている。	「地域とともに歩み響きあう真心のケアがごこちの良さとなり、こころやすらぐ『我が家』となる」との理念を具現化するため、全職員のアンケート結果から努力目標を掲げている。	予定されている虐待の芽チェックリストの結果に沿った月間目標の設定を実践し、さらなる理念の具現化を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大牟田市で行われている認知症の方への声かけ模擬訓練や避難訓練、老健や交流センターでの行事、保育園児との交流を続けているがコロナ禍でできなかった。	模擬訓練などは中止されているが、月1回公民館で地区公民館長や民生委員、社会福祉協議会などの参加で会議が行われている。ケアマネージャーは書記を担い、地域交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、この1年は地域との交流ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この1年はコロナ禍の為、運営会議を行っていない。	令和元年12月末から運営推進会議は中止となり、参加者には開催月毎に中止の連絡をしている。	運営推進会議の設置目的に鑑み、2か月毎に入居者の状況や行事など、従来の会議で報告されていた内容を参加者に書面で報告し、意見の表出を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	三池校区、まちづくり協議会などにも参加、市の地域コーディネーターともよく連絡をとりこの役割を確認し合っている。	まちづくり協議会で取り組んでいる「ながら見守り」の会議に参加し、ながら見守りの周知に携わったり、地域包括支援センターの地域コーディネーターと連携しながら、エコキャップのリサイクル活動を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や日々の生活の中で拘束の意義は全員周知している。安全のため居室の鍵かけなどは家族と相談し同意を得ている。	母体医療法人で開催される身体拘束適正化委員会に管理者が参加し、虐待の芽チェックリスト等で具体的な身体拘束内容を周知徹底している。「待つ」だけでなく、入居者に待つ理由や時間を納得してもらえる声かけに務めている。離園者を門扉の所で保護した経緯もあり、家族にSOSバンクについて説明し登録している入居者もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回「虐待の芽チェックリスト」や「自己点検シート」を活用しアンケート調査を行っている不適切ケアについては全員で検討会を開き虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いろは内で模擬試験などを行い、制度についてなどの理解を深めている。	親族との交流が少ない入居者1名が成年後見制度を活用され、定期的に来訪される保佐人に心身の状況を報告している。制度等に関する理解を深めたいと、内部研修や模擬テストを実施している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や契約時には、内容を十分に説明し、質問あれば納得を得られるよう対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会も制限され、3ヶ月毎のサービスの評価もスタッフのみで行い、家族より細かな要望など伺う機会がなかった。	定期的に入居者の笑顔満載のホーム便りを発行し、個々の入居者の暮らしぶりは家族が来所される折に報告したり、担当職員が個別に書面で報告している。面会を制限されている家族からは「いつから会えるか」との問い合わせを受けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体ミーティングや各担当者からの意見を聞き解決実行する。	毎月職員が出席しやすい午後ユニット合同のミーティングを開催し、業務内容を検討し、ユニットによっては遅出の勤務時間を見直している。管理者が法人会議に出席し、職員の休憩室の設置を申し出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	遅出業務の出勤時間をユニットで時間差をつけている休憩場所がないため各自の休憩時間が取れていない。休憩室を依頼中。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用については公平に対処している職員については意思を尊重している。	母体医療法人からの異動もあり、30代～60代の男女の職員が常勤職員として勤務している。離職が少なく、資格取得や研修参加を推奨し、休みやシフトの希望が叶い、子育て中の職員もある。折り紙、読み聞かせ講座を受講した職員もあり、其々が交代で広報や企画、飾りつけなど担当し、生き生きと勤務できる環境を整備している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権はもちろん職員の人権も確保し差別のないよう日々ケアに努めている。	人権に関する外部研修の開催はなく、実施した虐待の芽チェックリスト等の結果を検討し、日々のケアを振り返り適正化に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年は法人内外の研修の機会を持ってなかった為、ホームでの事案を通し検討会を行ったり、テスト形式でのトレーニングも行った。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ネットワークを通じての連携や同業者との交流を図り質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、不安・要望は受け入れ、安心して入居できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より本人・家族の思い・希望を聞き、必要なサービスを提供できるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時にご本人様、家族、その他関係者との打ち合わせを行うと共に、できる限りもとの生活と変わりのないよう法人内外のサービスも継続できるよう配慮を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下準備お盆ふきや食器洗いなどの家事、新聞やテレビの情報を共有し共同生活の関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを受け止め家族と相談支援しているコロナのため面会を控えていただいているが支払い時などに日常生活を報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から交流のある友人などが、ホームにこられたり、電話などできるよう支援している。現在、来所に関しては、コロナ禍の為、一部制限をさせて頂いている。	頻回に来所されていた家族もあるが、現在は玄関先からの面会をお願いしている。事務所前の公衆電話の使用やレクリエーションで作成した年賀状や暑中見舞い、絵手紙などで家族等との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング内での会話や家事や創作活動を通じ関わりが持てるよう環境作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も近隣で生活されている方は時々訪問している。退去後の入居者様ご家族が遊びに来たり、相談に来やすい様に声かけたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を聞き「その人らしい生活」ができるよう支援している意思疎通困難な方は、話しかけにより表情を見たり、難聴の方には筆談でコミュニケーションをとっている。	家族構成や職歴等をフェースシートに整備し、心身の状況を定期的にアセスメントしている。日頃の関わりから思いや意向の把握に努めている。	把握した心身の変化を印字を変えてアセスメントシートに書き加えるなどの工夫で、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に生活歴などを伺い、ホームでも同じ環境に近い状態で安心して生活していただける様努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態をスタッフ間で共有し本人のペースに合わせた生活ができるよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに本人を交え担当者会議を行い介護計画を見直している。この1年、コロナ禍のため家族は不参加にしている。	入居者や家族の意向、職員の気づきや意見を話し合い、計画を見直している。午後になると「家に帰る」と言われる入居者が納得する対応を書面に記載し、同じ対応を全職員が実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や家人来訪時話を聞き個別記録に記入し職員間で情報共有している。又、プランの見直しにも役立っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じ、全職員が関わることで柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行方不明者検索ネットワークに登録、緊急時のセーフティーネットとして活用、ペットボトルキャップのリサイクル活動などにも参加している。あんしん介護員の訪問はコロナ禍の為休止中		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者によって以前からのかかりつけ医へ継続して受診ができるよう家族と協力して受診を支援している。定期受診の他は体調に変化があるときは家族に話をして受診している。結果については、その都度、電話報告している。	母体医療法人がかかりつけ医の入居者もあるが、看護師の資格を持つ職員が常勤し、歯科の訪問診療や希望の医療機関、専門医療機関受診を円滑に支援している。1月に風邪症状で受診し肺炎の診断で即入院された入居者もあり、医療連携に努めている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を随時看護師に報告相談し、必要時は病院受診している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師に状態の変化などを報告、相談し情報共有、連携を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針を入居時に説明している入居者や家族の希望を確認する。事前に調書もとりの思いの把握に努めている。	経口摂取ができなくなり入院となったが治療が無く、本人や家族の「ホームに戻りたい」との希望で再入居された方は、昼食後に急逝された。現在は終末期の入居者はないが、職員の看取りへの不安が大きく、今後も緊急時は医療機関に搬送予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急救急対応マニュアルがありそれに沿って対応している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施して、その際は、業者や消防の方に来て頂き、指導などもうけている。昨年の水害時には、法人スタッフにも協力してもらい実際に避難した。	元消防士の法人職員の指導を受けた経緯もあり、片方のユニット職員が通報し、他方のユニットの職員が入居者を避難させる訓練を行っている。昨年の水害時は近隣の母体法人スタッフの協力で、系列介護施設の2・3階に避難している。食料等は母体法人で備蓄し、感染予防グッズを備蓄している。	異常気象による自然災害が予想される昨今、入居者に関する持ち出し書面の検討や整備を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレに入室する際に「ノック」や「声かけ」を行い入居者様に失敗等があれば、周囲に配慮しつつ、優しく丁寧な言葉で、対応している。	氏名や名前で呼称している。管理者は常に誰かに聞かれていると認識した丁寧な声かけを指導している。訪問調査時も、管理者は居室訪室時はプライバシーに配慮し、必ずノックをしていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で入居者様の表情を見て思いや希望を聞き入居者様が自ら決断できるように支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合わせ、どのように過ごしたいか希望を聞き希望に沿って支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みの服や季節感にも配慮した服装選びを支援し、おしゃれを楽しめるよう心がけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を味わって頂く為、旬の食材を使ったり、入居者様と一緒に料理、お菓子作りをしている。	入居者の状況に応じてテーブルを分け、職員の介助や見守りで其々のペースで完食する入居者がほとんどである。栄養士の常勤職員とともに本人と相談しながら、食材の切り込みだけでなく、お粥や炒め物、おにぎり作りで力量を発揮できるように役割や場づくりをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を配置、毎日3食と、おやつを食べてしっかり栄養管理を行っている。又、Dr指示のもと栄養補助食品を提供することもある。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし自分でできない方には介助し口腔内の清潔保持に努めているまた複数回希望される方には、歯と歯茎が痛まない程度にケアしていただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、声かけやトイレ誘導をし出来ない部分を介助している。夜間のポータブルトイレはすぐに使用できる位置に設置している。	ベッド下にセンサーマットを敷き転倒を防止し、夜間ベッド傍のポータブルトイレでの排泄を支援したり、頻回な尿意の訴えにはその都度対応に努めている。洗面台での放尿に蓋をしたり鳥居を描き防止していたが、先日蓋を撤去し、入居者の行動を見守っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	9時の水分補給時に乳酸菌飲料を提供している。服薬は主治医と相談している。体操をしたりして体を動かし自然排便を、促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回の入浴を支援し、ゆっくりと入浴していただけるよう準備を行っている。	広く明るい脱衣室や浴室は清掃が行届き、要望があれば毎日でも入浴できるが、週2～3回を目途に入浴を支援している。「家で入っているから」などと入浴を拒否される入居者には声かけを工夫している。中にはコロナ禍以来、家族ではなく職員の介助で入浴されるようになった入居者もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に沿うよう耳を傾けている。午睡を希望される入居者様に対しては、ベッドでの休息を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分包や服薬介助の際、飲み忘れや誤薬がないかスタッフ間でダブルチェックしている。服薬による症状の変化については日々観察を行い、家族や主治医と相談し調整している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみを見つけ生活に喜びを感じていただけるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿ってホーム周辺を散歩している。コロナ禍の為交流や外出はできていない。	感染防止対策をとり、初詣や車窓からの花見に出かけたり、敷地内の散歩や傍の畑で芋ほりをしている。外出が緩和された折には、近隣の大型スーパーに買い物に出かけたり、家族との外食を支援したいと管理者は話している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は全員ホームで行っている。レクリエーションとしてホーム内で模擬店を開き、買い物体験をしていただく取り組みを行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば公衆電話を利用させていただいて、ホームにかかってきた電話は取り次いでいる。年賀状や暑中見舞いなどもレクリエーションを通じ家族におくり、それ以外でも絵手紙やはがきなどを出される方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有通路は十分な幅を保っている穏やかに過ごしていただけるよう音や温度を調整しています	各ユニットの玄関や居間のパーテーションには入居者が制作した大きなひな祭りの貼り絵が掲示され、中庭の満開の椿の花が目を楽しませてくれる。空調が管理された居間は傍の厨房から美味しそうな匂いが漂い、椅子やテーブル、ソファなどが設置され、日中は居間で寛ぐ入居者が多い。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子を置きゆっくりと談話していただけるようにしている公園の椅子とテーブルはご自由に使用していただき1人の時間もてるよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅になるべく近い環境で、使い慣れたものを使いやすいように、ご家族と情報共有してレイアウトしている。	居室入口はひさしや家族が氏名を書かれた大きな表札や自宅から持参された表札が掛けられ、懐かしい我が家となっている。ベットや洗面台が設置された和室や洋室の明るい掃き出し戸は換気のため開けられている。箆箆や飾り物、椅子やテーブルが持ち込まれ、清掃や整理整頓が行き届いている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具の使用時は危険のないよう生活できるようにしている。又、場所の指示や使い方の説明などを壁などにはり、わかりやすいように工夫している。		